

[ドウシ・テ]

道志 手帖

Spring 2015 no.8



Contents



表紙写真

撮影：香西恵

(2015.5.13)

端午の節句には、かやでふいた屋根に、かや・よもぎ・しょうぶを飾り付け、男の子はしょうぶで鉢巻をし病気をしないようお願いしました。(『七里の郷道志』より)

What's "Doshi-techo"?

「道志手帖」とは？

略して「ドウシテ」。「どうしてどんなところ？」という関心から生まれた、道志村地域おこし協力隊による冊子です。村の外からきた隊員が、村で生活していて気になったこと、おもしろいなおもったこと、発見や驚きを、年4回報告していきます。隊員の活動報告もおこないます。

ブログで日々の活動を報告しています。ぜひご覧ください。 doshi-okoshi.com
facebook もやっています！ facebook.com/doshi.okoshi



[特集] 道志今昔—いちまいの写真から— …5

時の移ろい—昭和と平成の道志村— 千々輪岳史 …6

道志の「メイ先生」 中島拓哉 …10

[連載]

道志生きもの写真帖⑥ 香西恵 …13

野原絵地図 千々輪岳史 …14

食べたい知りたい道志の味 ろっくちめ「山菜料理」 千々輪岳史 …16

林業人列伝③水越敬高さん 大野航輔 …18

協力隊・井口が伝える「足揉み健康法」 井口陽介 …19

人が主役！ 薪のエネルギー利用⑦ 大野航輔 …20

道志村の珈琲ブレイク… 井口陽介 …20

声 …21

協力隊だより⑧ …22

道志村の行事 矢頭山のお祭り …24



📷 gallery

色づく季節

撮影：中島拓哉 (2015.5.16)

山々の新緑が日増しに濃くなっていくなか、田んぼにも緑が映える時期となりました。久しぶりの泥の感触を確かめながら、ひとつ、またひとつと緑を添えていきます。



[道志村地域おこし協力隊]

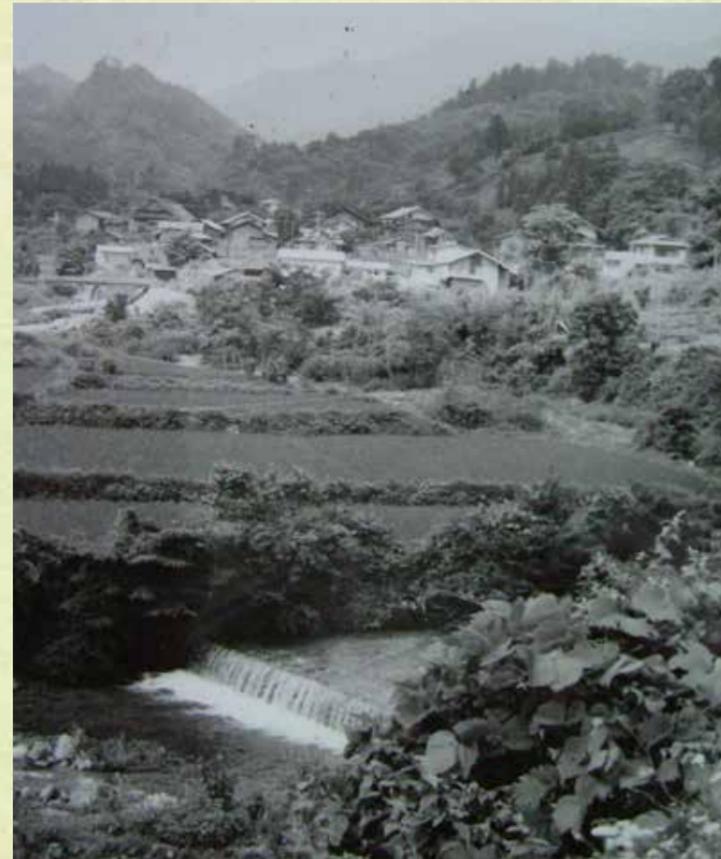


【昔】昭和30年（1955年）頃の駐在所（かつては「警察巡査派出所」と言われていた）、左隣には薬師堂も写っている。当時、馬耕が行われていたことが分かる。今と比べると山の斜面に木がない。

川原畑薬師堂



【今】駐在所は国道の反対側に移され現在は無い。薬師堂は立派な建物に建て替えられた。薬師堂の奥の建物は道志鉄工建設、左に写っている建物は七里味噌生産加工所。



【昔】板橋の方から白井平を写したものの。「道志七里」の伊藤堅吉氏が写したもので、昭和25年（1950年）頃の風景。左奥に見える大きな茅葺の家は元村長の水越彦蔵氏宅。

白井平



【今】道志川の小さな堰堤と田んぼ、山の風景は昔のまま。

時の移ろい

―昭和と平成の道志村―

道志村の風景はどのように変わってきたのでしょうか。昔の写真から撮影場所を訪ね歩き、今と比較してみました。
（千々輪岳史）

野原

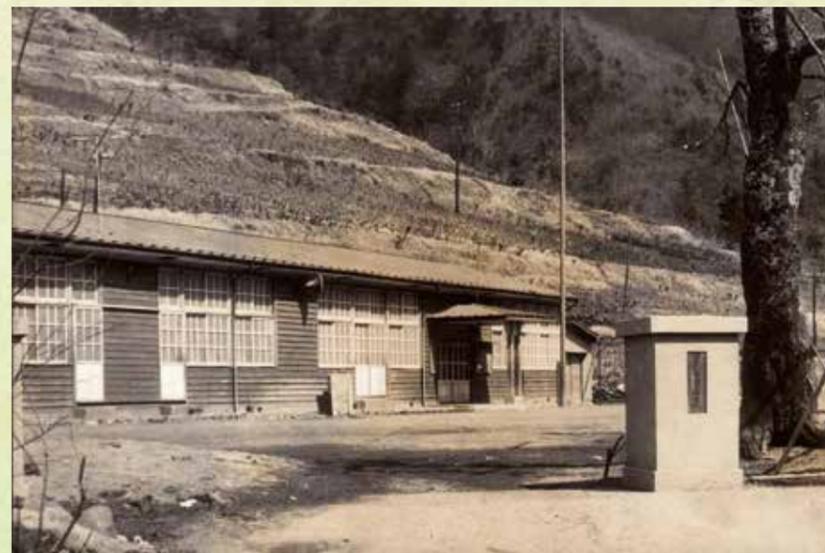


【昔】昭和50年（1975年）当時の野原集落の東にある屋号「犬橋」の三軒。右の茅葺屋根に金属の屋根をかぶせた家（屋号：犬橋の下）の後ろに茅葺屋根の家（屋号：犬橋の上）が見える。その隣の家（屋号：こっちの橋）は二階建ての家になっている。手前の小屋は木工小物を生産している「もっくん」の工場で、この頃事業を始めた。この小屋は牛小屋だったという。なお、野原の吊り橋は昭和57年竣工なのでまだ無い。

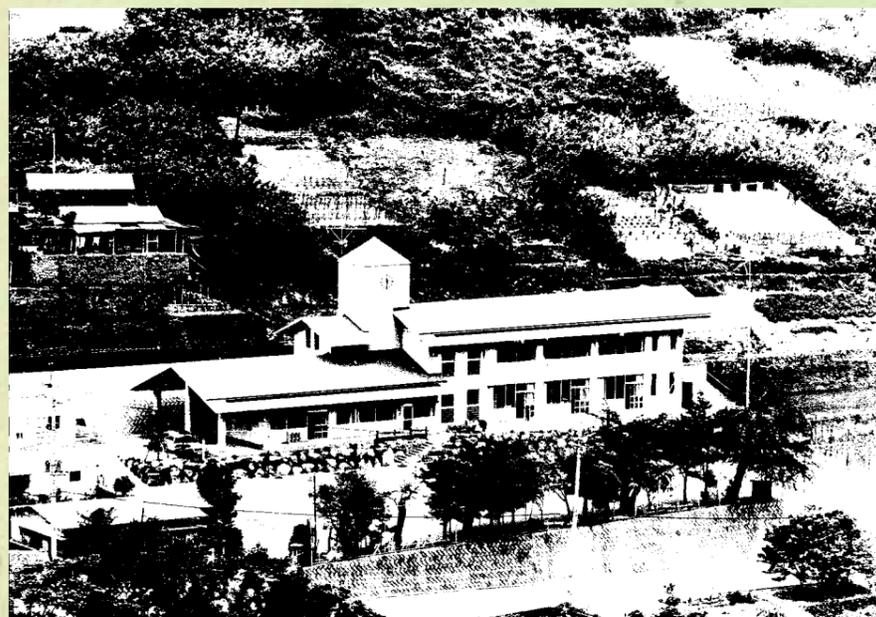


【今】三軒三様に家を新しくしたのがおもしろい。「犬橋の上」は家を造り替え、「犬橋の下」は古民家再生で新しくなった。「こっちの橋」は隣に新たに家を建てた。また、「もっくん」は社業拡大に伴い田んぼを工場と資材置き場にした。

【昔1】昭和40年（1965年）頃の久保分校旧校舎。後ろに写っている山の斜面には桑畑が見える。



久保分校



【昔2】昭和61年（1986年）竣工当時の久保分校新校舎。旧校舎の後ろに建て替えられ、校庭が広がった。現在「がんどう庵」がある場所に建っているのは教員住宅。久保分校は村内の小学校統廃合に伴い平成11年閉校。

【今】平成22年（2010年）4月、久保分校は木工を中心とした体験施設「みなもと体験館」として生まれ変わり現在に至る。右端に写っている二階建ての建物は消防団第一分団の詰所。



道志の「メイ先生」

笑顔で写る外国人女性と子どもたち。
一枚の写真を辿っていくと、たくさんの思い出と物語に出会いました。
(中寫拓哉)



昭和35年(1960年)頃に撮影された写真。善之木、白井平、長又地区の子どもたちとメイ先生。笑顔が印象的な1枚



メイ先生と3人のお子さん。お子さんは流暢な道志の方言を話す生粋の道志っ子だったそう

「あの頃はメイ先生のところへ行くのが楽しみだった」当時を振り返る多くの方がそう話す。
今からおよそ60年前。道志村白井平地区にメイ・レディントンさんが住んでいた。碧い瞳、白皙の頬、亜麻色の髪。「メイ先生」と呼ばれ、先生の家は子どもたちの賑やかな声で溢れていたそう。

十 宣教師メイ先生道志村へ

メイ先生は昭和25年(1950年)に道志村にやってきた。母国アメリカでは教員を経て海軍に入隊したという。時代は太平洋戦争を経て終戦へ。当時のマッカーサー元帥は、戦後の荒廃した日本の再建のためには、日本へ宣教師を送ることが必要だと訴えた。メイ先生は、彼の言葉を聞き、神は自分を日本への宣教に召して下さったと確信したそう。その後「日本に救いを」の思いを持って神学校に進み、宣教師

として来日、山深い道志の地で伝道を始めていった。(※1)

十 メイ先生との思い出

メイ先生が住んでいた白井平地区でお話を伺うと、当時の思い出話をたくさん聞くことができた。

メイ先生の家は「教会」として、地区の子どもたちが集う場所となっていた。毎週「日曜学校」がおこなわれ、集まった子どもたちは聖書の話を聞いてお祈りをし、讃美歌を歌って、みんなで菓子を食べた。

当時はまだお菓子がなかなか手に入らない時代。集会に行くとき珍しかったチューインガムやチョコレート、コンペイ糖、クッキーがもらえた。子どもたちはお菓子を夢中で教会はいつも「子どもが多くお祭りのようだった」そう。

集会が終わったあとも子どもたちは家に帰らず、パズルなどのあそびをしていた。メイ先生もそれも怒らず、とても優しくした。

また当時は洋服など買えず、着ることができなかつた。もんぺが一般的だった時代、メイ先生から珍しい洋服をもらったこともあった。



昭和26年(1951年)頃の写真。もんぺ姿の子どもとこの当時の道志村には珍しかった自転車対象的である。右端：北浦宮子さん、右から3番目：菅谷達子さん(当時小学校高学年)



白井平地区にあったメイ先生の家[教会](右)。25坪の家は3ヶ月かけて村人の奉仕と協力によって完成した。左はメイ先生の家跡地。昭和39年(1964年)の白井平の火事の後、空き家となっていたメイ先生の家は購入・移築された



北浦宮子さん
「当時歌った讃美歌
〈諸人こそりて〉
〈いつくしみ深き〉
は今も忘れていないよ」



菅谷達子さん
「ミズ(桑の実)、つば
のこ、くろびといった
野草がおやつ
の時代。
甘いお菓子は尊いもの
だったよ」

※1 レディントン敏子さん(メイ先生の義娘)のお話と田中とし子さんが所有していた資料より



ホオジロ 野原 2015年4月10日
姿はスズメに似ているがスズメより大きい。野原の田んぼで何か食物を探しまわっていました



クマの爪痕 山伏 2015年4月17日
登山道脇の松の木に何度もひっかいたようでした



シカの食痕 山伏 2015年4月17日
ツガの幹はおいしいのでしょうか？



シカ 室久保 2015年4月19日
深夜は大胆に家の前にやってきます



キランソウ 田代 2015年4月17日
別名「地獄の釜の蓋」とも呼ばれます。葉に毛が生えています



ヤマメ 唐沢 2015年3月29日
小さくても溪流の女王の名が似合います



ヤマブキ 室久保 2015年4月17日
昆虫が蜜を吸いに訪れます



ヒトリシズカ 田代 2015年4月17日
山中に点々と白い花が咲くようすは何かの道しるべのようです



ミツバツツジ 田代 2015年4月17日
早春の山を彩ります

第6回

道志 生きもの写真帖

村内で見られる生きものやその痕跡を紹介します。
写真=香西恵・千々輪岳史・中島拓哉

※2 キリスト教を基盤に女性の社会参画等を目的とした国際 NGO / ※3・4 田中とし子さんが所有していた資料より。昭和28年発行の『道志七里』356頁にもメイ先生と田中先生の記述がある / 写真は現在のものを除きメイさん所有のもの / なお、一般社団法人家の光協会『家の光』第27巻昭和26年2月号、24～31頁「雪やまの聖歌」にメイ先生の道志村での生活の様子が描かれている



佐藤成子(しげこ)さん
「こどもの時はメイ先生のところへ行くのが楽しみで田植えなんかの忙しいとき以外はしょっちゅう通ったよ」「メイ先生んちは冷蔵庫に洗濯機、ハイカラなものが多かったなあ」
◀昭和28年頃撮影、右から2番目が当時5歳の成子さん



高田基予さん提供

左) 田中先生は「当時医者は竹之本地区に1人しかおらず、メイ先生から高価な薬をおねだりしたり、ケガの手当をしてくださったりで、この(白井平)部落には無くてはならない方」と話している(※4) / 右) 昭和32年(1957年)に田中先生は旧秋山村へ転任、メイ先生は都留市で宣教活動を始めた。その後もお二人は深い親交があった

クリスマスには地区の人を集めてクリスマス会を開催。手づくりのホットケーキを食べながら、マリア、羊飼いななどに扮した子どもたちが劇を披露した。

十 メイ先生を道志へ迎えた田中先生

白井平地区出身の田中とし子先生は、当時善之木小学校の教師だった。戦時中に夫を亡くし、道志の両親のもとに帰ってきていた。二人の子どもを育てながら、今後の生活や教育に不安を抱え、暗い気持ちを持っていたという。

その折に山中湖畔で開催されたYWCA(※2)主催の講習会に参加し、キリストの教えに心を打たれ、身も心も明るくなった。その後、田中先生は「どうか村人たちが隣人愛に目覚めますように、そして子どもたちをより高く正しく指導できますように」(※3)と布教を目指していった。

しかし、布教の道は苦難が伴った。まだ当時村では聞き慣れないキリストの教えはなかなか周囲に理解されなかったという。それでも田中先生の尽力によりメイ先生が道志に迎えられた。『道志の「メイ先生」』の思い出の裏には、強い信念を持った女性のひたむきな村人への想いがあった。



自宅出産が当り前の時代に野原ではお産によつて死んだ人がいたのは「お堂」のご利益によるといわれ、他集落からも安産祈願に来たという。久保と月夜野分教場ができる前はここに学校があった。

台風で山の一部が崩れ神殿が壊れたが、平成五年に再建された。その後カシの大木が倒れたが、社殿は難を逃れた。中央に事解男命(ことさかのおおみこと) 右に伊弉那美命(いななみのみこと) 左に曾我五郎十郎が祀られている。

かつてこの土地は「六百目」といわれ一升枘に六百匁(ぬめ) (2.2kg)の重さがあり道志村の中で一番良い土地であった。

この吊橋が「犬橋」ではない。旧県道にかかっていたかつての橋が犬橋である



野原は野原状の地形で開墾に適した土地である。村の中で一番平坦な土地に恵まれている。「野原よいとこ御存知あるか 嬢(かかあ)天下につるし柿」といわれ、干し柿は他郷へも出されていた。「道志七里」P94.95.110参照。

食べたい 知りたい 道志の味

ろっくちめ 「山菜料理」

山菜料理 レシピ 今回はふきみそと土筆の佃煮をご紹介します。

1. ふきみそ

1) ヒサヨさん流

材料：落の臺 120g、米みそ 50g、日本酒 10g、塩少々

- ①みそと日本酒を混ぜておく。
- ②落の臺は洗って汚れを取り、塩を少々入れたお湯でゆでる。
- ③芯が柔らかくなったら鍋から取り出し素早く流水で冷やす。
- ④水をよく切ってから細かく切る。(5m角くらい)
- ⑤①と落の臺を良く合わせる。



ふきみそ (ヒサヨさん流)

2) 紋子さん流

材料：落の臺 120g、麦みそ 40g、白みそ 40g、本みりん 13g、油少々

- ①麦みそ、白みそ、みりんを混ぜておく。
- ②落の臺は洗って汚れを取り、5分くらいゆでる。
- ③鍋から取り出し流水で冷やし、水をよく切ってから細かく切る。(5m角くらい)
- ④フライパンに油をひいて③を入れ炒め、続いて①を入れ、良く合わせる。



ふきみそ (紋子さん流)

* 苦みは落の臺の状態によって異なるので、1)、2)ともに調味料の分量はお好みで。2)のほうが日持ちがします。

2. 土筆の佃煮 (ご飯のお供やパスタに合わせて)

材料：土筆 70g (頭とはかまを取った状態のもの)、みりん 小さじ1、しょうゆ小さじ1.5、ごま油少々

- ①土筆を5cmくらいになるよう手で折るか、包丁で切る。
- ②フライパンに油をひき、くさみが無くなるまで15分くらい強火で炒める。
- ③火を止めて、みりん、しょうゆを入れて混ぜる。

*みりんやしょうゆの分量はお好みで。



土筆の佃煮



道志村の春の幸といえば山菜。たらの芽、うど、わらび、ごごみ等。山菜は山野に自生しており、畑で栽培される野菜や土手やあぜ道に生える野草と区別されるようですが、とにかく春しか味わえない里山の恵みを沢山見つけてみました。

山菜前線西へ

4月9日(木)に雪が降り、私が住む標高約400mの野原は満開の桜の花びらに積もる雪、一方標高約800mの白井平の桜はまだつぼみ。野原ではもう終わった落の臺が、白井平ではまだあると聞き、民宿・山光荘さんにふきみその作り方を教わりに行きました。おかみさんの水越ヒサヨさんと静岡から嫁いできた紋子さんとは作り方が違うとか。お二人の作り方を見せて頂きました。野原では土筆が採り頃なので、ヒサヨさんにお聞きしたところ、土筆は食べないとのこと。山菜が豊富な里山だからでしょうか。『道志七里』を読んでみると、「土筆は見向きもしない者もあるが、一部では汁や土筆御飯として喜ばれる」という一節がありました。

山菜祭り

4月18日(土)、19日(日)に道の駅どうしで開催された山菜祭り。春の味覚を楽しもうと山菜の天ぶらのブースには朝から行列ができていました。山菜の天ぶらは、『落の臺』、蓬、クレソン、たらの芽、しいたけ、ごごみ』6種類で1セット。手際よく揚げられた山菜はシンプルに塩で頂きます。行列に並んでい

連載

ると山菜おこわも一つまた一つと売れていきます。地元野菜のコーナーには、うど、ごごみ、山椒等が並び、まさに道志村の山菜シーズン到来です。揚げたてはアツアツ、サクサクでおいしく、いろいろな味も楽しめました。クレソンの天ぶらは道志ならではの味。

山菜採り体験

みなもと体験館で4月26日(日)山菜採り体験が行われました。毎年定員いっぱいですが、お客様の満足度が高いイベントです。わらび



道の駅どうしの山菜祭りの様子。右下：山菜の天ぶら(左から落の臺・ごごみ・たらの芽・蓬・しいたけ・クレソン)

を中心に山菜を採った後、がんばろう庵でうどんを打ち、揚げたての山菜の天ぶらとともに頂きます。わらびは自生しているものですが、地主の方の許可を得て体験館のスタッフが秋に草刈をしてわらびが出やすい環境を作り、春に採らせてもらっています。山菜や野草は採るのは簡単ですが、食べるには下ごしらえに手間がかかります。わらびの場合、アク抜きは水で洗って重曹を入れたお湯に入れ半日(一晚)おき、流水で水洗いします。

「春苦み」はなぜか

なぜ春に苦みのある山菜を食べるのでしょう。冬眠した熊が春に起きて最初に食べるのが落の臺という説があります。人間も冬は運動量が減り脂肪や栄養を体内に溜め込みやすくなります。山菜の苦みは新陳代謝を促進し、冬に体に蓄えたものを体の外に排出する効果があるといわれています。春に山菜を食べるのは大自然の中で人間が生きるための知恵の一つなのです。あなたも野や山から食べものを採ってくる楽しみ、料理する楽しみ、そして食べる楽しさを味わってみませんか。

(千々輪岳史)

道志林業人列伝③ 水越敬高さん(74)

「今しか出来ないことを、大事にしたい」



白井平地区25林班を対象に、山梨県の森林環境税を用いた計画作成を支援した敬高さん。道志村で初めての取り組みを行った経緯を伺った。

なぜ森林環境税の活用を決断したのですか？

親が亡くなり、若い衆の山に対する愛着がなくなり、自分の持ち山がどこにあるのかわからない状況。環境税を導入して計画を作り、

整備すれば、どこに山があるのかわかる。そのため、平成25年に役場と相談した。そこで南都留森林組合から連絡が来て、道志で初めてのことから、25林班200haをモデル地区としてやることになった。

最初は、計画の説明会を行った時は、賛同する人は少なかった。そこで、災害に強い山づくりを行い、自分の山を確認することは、今しかないところ

有者の方たちの家をまわ

り話をした。そうしないと、なかなかまとまらない。森林組合の人にも一緒に来てもらうこともあった。何代過ぎていっても、残るのは残る。これが一番大事なことで、基本。将来、道志の山について思うこと

うちの先代の山があったり、木があったりしたお陰で自分たちが育ってこれた。

道志全体を見ると、横浜林以外の山はまらずが入ってない。昨年の広島のように1000ミリの雨が降れば、山が崩れる。山を早く若返らせていかないとどうしようもないと思う。今は材価が低いけど、こんなことは一生続くはずはない。何代か後には必ずいいことがまわってくると思うよ。今、出来ることを大事にしたい。(聞き手：大野航輔)



協力隊・井口が伝える 足揉み健康法 「便秘」とは

足裏を刺激して 病気を予防、体質改善



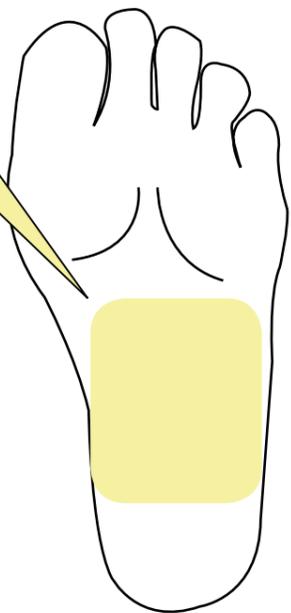
●便秘解消には足揉み……

女性に多いと言われる便秘ですが、お薬を飲んでいる人は男性よりも便秘になることが多く、一緒に便秘の薬をもらっている人が多いと言います。お薬で便秘を改善させるのは一時的には効果的ですが、いつも服用していると、腸の働き非常に鈍感になってしまいます。そんな時に足揉みはとても便利で、腸のツボ(反射区)をよく揉みほぐせば便秘の改善のサポートに役立ちます。

便秘は毎日の事ですから、足揉みも毎日お風呂の中でも、風呂上りでもいいので、良く揉んでみてください。きつと変化が出てくると思います。足揉みには即効性があるので、翌日には便秘が解消したという人もいます。皆さんも今日から足揉みにチャレンジして便秘を解消してみましよう！

<レッスン3>便秘にオススメな反射区

右の足図に色付けした部分を丁寧に5回ずつ左右の足を揉んで下さい。便秘改善に役立ちます。もちろん軟便の人へもオススメですよ。



今日から実践
若石健康法

自分で足を揉んで
疾病予防&リラックス！

【国際若石健康研究会認定プロ】
ご自宅に出張！足揉みサロン
ご依頼は井口までお電話ください！
皆様のご自宅に伺います
TEL 080-3090-2460

初回 30分 3,000円(税別)
無料 60分 5,000円(税別)



声

「道志手帖 読者アンケート」でご回答頂いた内容の一部と読者からのお便りを掲載します。

○道志で生産した木炭は、主に都留で販売したという記述に目を引きました。谷村は城下町という事もあり、機業が盛んで、政治的経済的基盤が安定していた為、郡内の文化的中心であった、という認識がありました。が、周辺地域からの燃料や織物の原

道志手帖7号の感想
○表紙のモノトーンの写真がすてきでした！雪が枝に点々と積もっている風景が一面雪の吊り橋と相まって詩情を漂わせています。ようこそ雪の林へと誘われているような気持ちになりました。木炭の燃える冬の日本の風景があつという間になくなり、クリーンで効率のよい電気暖房に変わってしまいました。それはそれで恩恵というものはあるにしても、あのほのぼのとした木炭の明かり、ぬくもりというものも捨てがたいものでした。文化が進むということは別の意味では何かを失う、捨てるということにもなるのです。養蚕でも炭でも、よいものでした。

○「やせうま」の写真、心惹かれました。以前、都留の細野出身の方に聞いていた「ヤセンマ」とは、まさにこれのことだったのかと。嬉しくなりました。想像していたものより

料の供給があつてこそ、と気づかされました。郡内地域について、自分の中には無かった見方を教わったように思います。道志についてももっと勉強したくなりました。
○しょうゆもこんにやくも私たち10代の若者は搾り方をあまり知りません。なので、今回の記事にあつたような始めから物ができあがるまでの工程を取り上げてもらうことで知ることができました。道志手帖を読んでいると「自然っていいな」とすごく思いました。

す。
Eメール：
kozai-kei@vil.doshi.yamanashi.jp
郵送：〒4020206
山梨県南都留郡道志村6181-5
道志村地域おこし協力隊 香西まで

○今回の「炭焼き」のようなテーマに焦点を当て続けていただきたいです。観光地やレジャー施設の紹介とは別に、冊子をおして見えてくる風土や文化がある道志村とは一体どんな所なのか、さらに興味が湧いてくるからです。たとえば、誰が見ても立派に感じる観光地でなかったとしても、「ああ、ここがあの炭焼きがされていた土地か」と思いたすだけで、きつと、眼の前の地域を深く楽しむことができると思えます。

人が主役！ 薪のエネルギー利用 第7回

大野航輔



薪ボイラーの視察見学風景

「木の駅どうし」は平成24年に開設後、今年で4年目を迎えます。道志村役場産業振興課とNPO法人道志・森づくりネットワークが連携して運営を行って来ました。毎年、全国各地から木の駅と道志の湯薪ボイラーの視察見学に多くの方が訪れます。

以下、私に対応させて頂いた見学者をまとめました。平成25年は合計13団体、平成26年は15団体で、平成25年の合計人数は110名。平成26年は132名にお越し頂きました。北は北海道、南は福岡県の範囲から来村しており、林野庁森林技術総合研修所が5回と最も多く、自治体(根

羽村、南牧村、山北町、岩手県庁、郡上市、相模原市、下川町)やNPO(足柄丹沢の郷ネットワーク、エネルギーシフトやまがた、三島フォレストクラブ)、コンサルタント(森のエネルギー研究所、協同総合研究所、アマタ、バイオマスアグリゲーション)、地域おこし協力隊(王滝村)、報道(週間朝日、NHK)となっています。

今後も多くの方にお越し頂けるよう努力していきます。



道志村の珈琲ブレイク…

井口陽介

春の訪れを肌で感じながらコーヒブレイクを楽しむ季節になりました。本当に美味しいコーヒの淹れ方を知りたい方にぜひともオススメする1冊の本があります。【コーヒ入門/著 井上誠】という本です。昭和時代のコーヒ研究者であり、コーヒを学ぶ人にとってはいずれ巡り合う人物が記した1冊。コーヒを愛し、コーヒの淹れ方を丁寧に、かつ簡単にできる方法がここには記されています。コーヒの本は色々と出版されてはいますが、この本を読むと珈琲の知識はもちろんですが、コーヒに対する思いや、考え方をぞんざいにしてはならないということが身に染みて分かります。珈琲の本を読みながら、美味しいコーヒを飲んで有意義な時間を過ごすのも贅沢なものです。これからも楽しいコーヒライフをお楽しみください。



縄の結び方が複雑なんですね。

○私も炭焼きをした事が有ります。その時に使ったさお計と温度計がまだ残っています。温度計は今、毎朝の温度を計って手帳に記入しています。

このページでは、地域おこし協力隊の活動を報告していきます。



山菜採り体験 (みなもと体験館) (4.26)
第7回道志村トレイルレース (5.10)
第18回道志村クラフトフェア (道の駅) (5.16-17)

ウェディングパーティー in 道志 開催します

道志村に来てから2年。この度、縁あって結婚することになりました。相手は北海道出身の方です。パーティーはもちろん、大好きな道志村で開催したい！ この際、日頃お世話になっている方々に、道志村を五感で堪能して頂き、とにかくたっぷり楽しむ！ をコンセプトに、リブレのキャンプサイトをお借りして、野外でウェディングパーティーを行います。堅苦しいことは一切ナシで、動きやすい格好でご参加頂きます。6月6日(土)14時、開始予定です。詳細は以下HPに掲載しております。

<http://doushi-wedding-0606.jimdo.com>

(大野航輔)

コラボ企画イベントを終えて

昨年度、みなもと体験館の月一イベントの提案をして6つ採用して頂きました。そのうち4つを準備から実施まで深く関わりました。結果は以下の表の通りです。

野外体験の新企画だったリバートレッキングは残念ながら参加者がいませんでしたが、その他3

表1 2014年度コラボ企画イベント一覧

企画名	実施日	募集人数	参加者
道志溪谷探検 (リバートレッキング)	7月29日(日)	15	0
竹の伐採と楽しい竹利用 (竹の工作)	9月21日(日)	30	22
クリスマスリースとクリスマスツリー作り	11月23日(日)	30	23
ミニチュア家具づくり (ミニチュアキッチン)	3月22日(日)	10	8

つは参加者が応募人数に対し過半数を超えたので、数字の上では当初立てた自己目標を達成しました。

アイデアだけで木工や自然に対する知識や経験が不足している私をみなもと体験館のスタッフの皆様が支えてくれました。ありがとうございました。準備には思った以上に時間がかかった他、広報やコスト、関係者との相談など企画を実施する難しさを体験することができ勉強になりました。

みなもと体験館に来て頂いたお客様が「来て楽しい」、「また来てみたい」施設になるようお手伝いしたいと思います。(千々輪岳史)



野菜作りに励んでいます

道志村にも春が訪れ、野菜作りが始まりました。ジャガイモ、キュウリ、カボチャ、トマトなど、色々な野菜を栽培する予定です。昨年植えたニンニクも順調に育ち、そろそろニンニクの芽が収穫できる予定です。今年は色々な収穫を通じてお客様に喜んでもらえるような商品作りが出来るように努力していきたいと思います。

畑仕事の合間に道志村の美しい新緑を眺めるのが最高に気持ちいい時間です。自然が豊かな場所で生活できる喜びは何にも代えられない贅沢です。(井口陽介)

道志の清流で育むわさび

今年度からわさびを栽培することにしました！昔は村内でもあちこちでわさびがつくられていたと聞きます。豊かできれいな水が自慢の道志村ではそれはいいわさびがつくれたそうです。今でも沢の流れをたどると、山奥にとても立派なわさび田が見られます。わさび田を整備するのはとても労力のかかる土木工事です。先人の努力と知恵を窺い知ることができます。

私はかつて使われていたわさび田の一枚をお借りして、わさびの植え付けをしました。現在村内でわさび栽培に取り組む「田代わさび育成会」のみなさんにご指導いただきながら、初めての経験にわくわくしています。

今年植えたわさびは約500本。収穫まで最低でも1年を要します。道志の清らかな水のなかで少しずつ大きくなっていくわさびを愛でなが

ら、摺りたての本わさびを味わえることを楽しみにしています。

ちなみにわさびは茎と葉っぱにも辛みのある風味があっておいしいです！茎と葉の天ぷらや漬け物は格別です。村内の温泉施設や直売所等でお買い求めできますので、ぜひご賞味ください！

(中島拓哉)



(上) 植え付け直後のわさびたち。まだ弱々しいですが、1年後が楽しみです！(右) こんなわさびが収穫できることを祈って……。道志の自然がいいわさびを育みます

編集後記

今号も多くの皆様のご協力を頂き完成することが出来ました。ありがとうございました。今号の見所はなんといっても「道志のメイ先生」(10~12頁)です。『道志七里』やほかの雑誌等でもメイ先生について紹介されていますので、ご関心のあるかたはぜひご覧ください(協力隊事務所にも関連資料があります)。

次号(9月発行)の特集は「道志と都留」です。昔から道志と都留(谷村)は人の行き来がありました。現在、都留文科大学の学生と一緒に取材を進めています。どうぞお楽しみに。(香西恵)

協力隊だより



男衆がそれぞれお参りをした後に全員で長又集落の安寧を祈願

道志村の行事 矢頭山のお祭り

道志村の最も西にある集落・^{ながまた}長又。オートキャンプ長又の手前に^{やのうさん}矢頭山の登山口がある。岩の露出した山頂直下に風神・雷神として石の祠が祭られている。この石の祠はその前の木の社殿が朽ちたため、約 25 年前に部品に分けて男衆が担ぎ上げたという。4 月 19 日（日）、お米、お塩、お酒で祠の周りを清め、男衆でお参りをし、御神酒とお赤飯を一口ずつ頂き、山を降りた。なお、この山には頼朝伝説がある。頼朝は東の岩の崖を馬で登り、山頂から矢を放ったところ一里先の^{やさき}矢崎（神地地区）まで到達したという。



登山道の周りの掃除をしながら登る



ミツバツツジがちょうど見ごろ

文・写真=千々輪岳史

